令和6年度　郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業

＜置賜地区の事例＞

おきたまジモディ（じもと×study）プログラム

実施自治体：川西町

実施コミセン：玉庭地区交流センター

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ２

公民館主事が教育事務所の社会教育主事と一緒に、プログラム内容を検討

担当者打ち合わせ①

日　時：令和６年６月１２日（水）

場　所：玉庭地区交流センター

参加者：玉庭地区交流センター　職員　１名

置賜教育事務所社会教育主事　１名

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

担当者打ち合わせ①

内　容：〇事業概要説明

〇月曜日に開催している、たまにわ地区放課後子ども教室で内容を検討する。

→むくり鮒（冬）、玉庭ひなめぐり（３月）、

四方山太鼓…

（四方山太鼓を秋まつりで発表することを腹案とする）

〇今後の予定

７月８日（月）第１回企画会議

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ３

当該公民館の地域で事前現地調査・地域団体とのスケジュール調整

企画会議①

日　時：令和6年7月8日（月）16:00～17:00

場　所：玉庭地区交流センター

参加者：川西中学校1～3年生　9名

たまにわ放課後子ども教室コーディネーター　1名

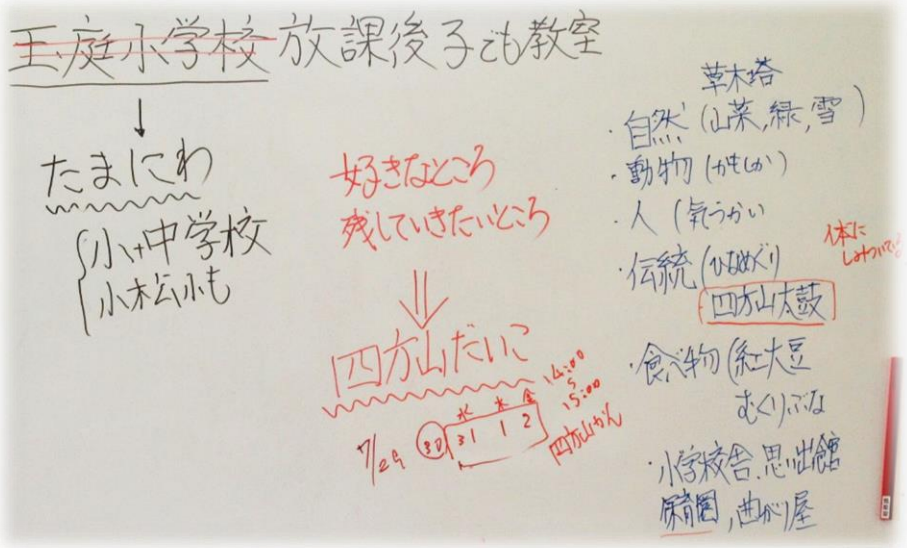
玉庭地区交流センター担当者　1名

置賜教育事務所社会教育主事　1名

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ３

当該公民館の地域で事前現地調査・地域団体とのスケジュール調整



企画会議①

・当該地域の小学校、中学校での地域学習の内容確認

・当該地域の魅力の掘り起こし

→玉庭地区の好きなところ、残していきたいところ

体にしみついている！

四方山太鼓

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ３

当該公民館の地域で事前現地調査・地域団体とのスケジュール調整

企画会議①

〇スケージュール調整

第１回目の練習会を実施（7／31、8／1、8／2）

地域の先生と中学生が、小学生に太鼓の指導をしてくれました。

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ４

地域の中学生を募集し、プログラムの企画準備
①地域資源の現地調査
②調査をもとにプログラムを企画

企画会議②

日　時：令和6年9月9日（月）16:00～17:00

場　所：玉庭地区交流センター

参加者：川西中学校1～3年生　7名

たまにわ地区放課後子ども教室コーディネーター　1名

置賜教育事務所社会教育主事　1名

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ４

地域の中学生を募集し、プログラムの企画準備
①地域資源の現地調査
②調査をもとにプログラムを企画

企画会議②

四方山太鼓…次はどうする？

→さらに練習して、地域の人にPRし、発表する。

今後の予定

９月１４日（土）　敬老会で広報活動

９月３０日（月）～１１月１１日（月）　第2回目の練習会

１１月１７日（日）　秋まつりで発表（体験プログラム本番）

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ４

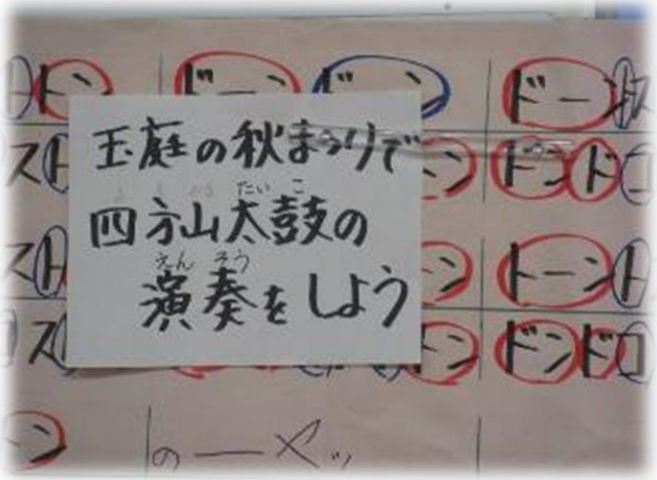
地域の中学生を募集し、プログラムの企画準備
①地域資源の現地調査
②調査をもとにプログラムを企画

第2回練習会

日　時：令和6年10月7日（月）16:00～16:30

場　所：玉庭地区交流センター

参加者：川西中学校1～3年生　5名
　　小松小学校1～6年生　4名



３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ４

企画会議③

日　時：令和６年１０月７日（月）
１６：３０～１７：００

場　所：玉庭地区交流センター

参加者：川西中学校１～３年生　５名
講師（板垣　洋子　氏）
交流センター職員　２名
置賜教育事務所社会教育主事　１名

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ４

企画会議③

内　容：「玉庭の秋まつりで
　　四方山太鼓の演奏をしよう」

・どんな演奏にするか。
・どんな発表にしたいか。
・テーマ
・役割分担
・演出（ソロ、段階的に人を増やしていく等）など

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

企画準備

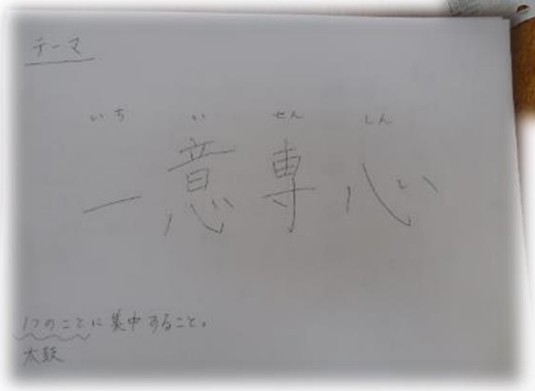
四方山太鼓発表のための看板づくり

テーマ「一意専心」

太鼓を教え合うペア、衣装、発表本番の流れが決定

＜本番の流れ＞

・中学生の挨拶
・四方山太鼓の演奏（1曲目、2曲目）
・中学生による3曲目への意気込み
・四方山太鼓の演奏（3曲目）
・中学生の挨拶



３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

企画準備

秋まつり本番に向けてのリハーサル

- 衣装合わせ
- 太鼓の位置
- ペアの確認
- 音の出し方
- 声の出し方
- 出入り　等
- 看板作成（最終確認）

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

ステップ５

地域の小学生の参加を募集し、中学生が主体となり事業を実施

体験プログラム

日　時：令和６年１１月１７日（日）

場　所：玉庭ふるさと総合センター
（おもいで館）

参加者：小松小学校児童　７名
川西中学校生徒　６名
太鼓指導者　１名
たまにわ地区放課後子ども教室職員　３名

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム

玉庭の秋まつりで四方山太鼓を演奏しよう！
テーマ　　『一意専心』

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム

玉庭の秋まつりで四方山太鼓を演奏しよう！
テーマ　　『一意専心』

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

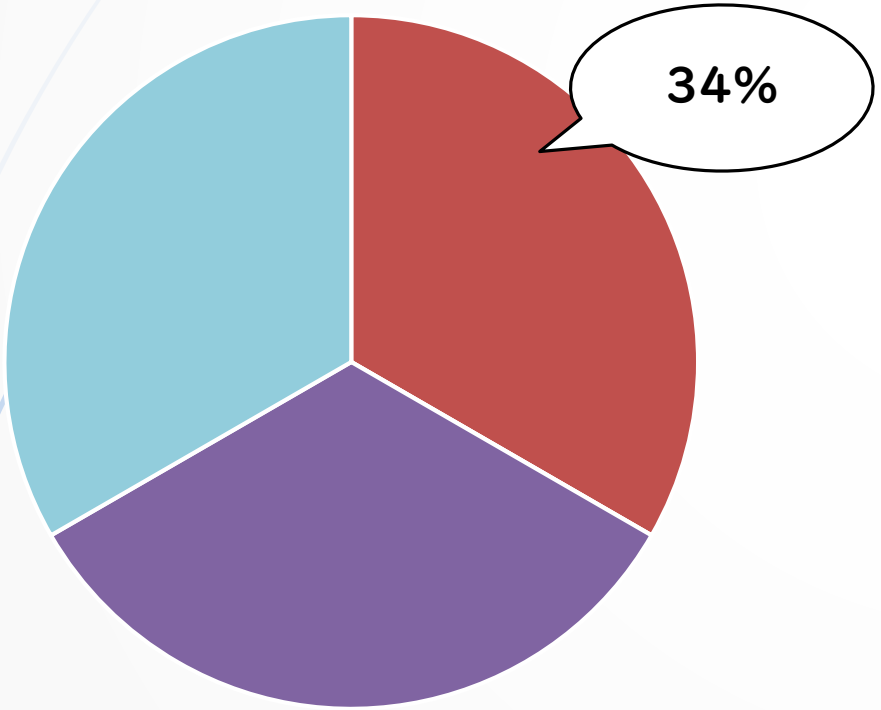
体験プログラム

玉庭の秋まつりで四方山太鼓を演奏しよう！
　テーマ　　『一意専心』

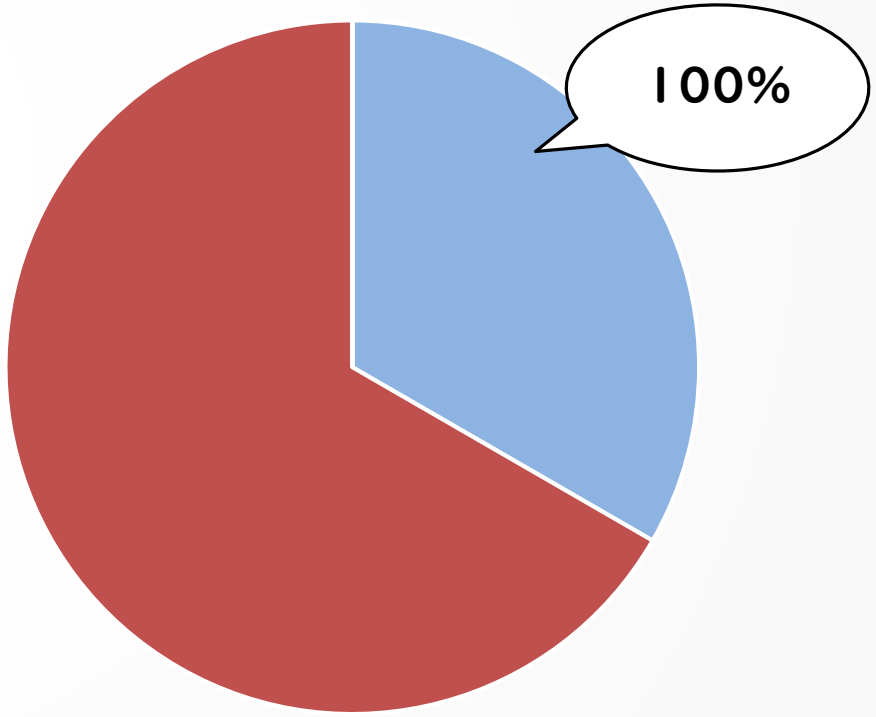
３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより【小学生】

活動を通して発見はあったか



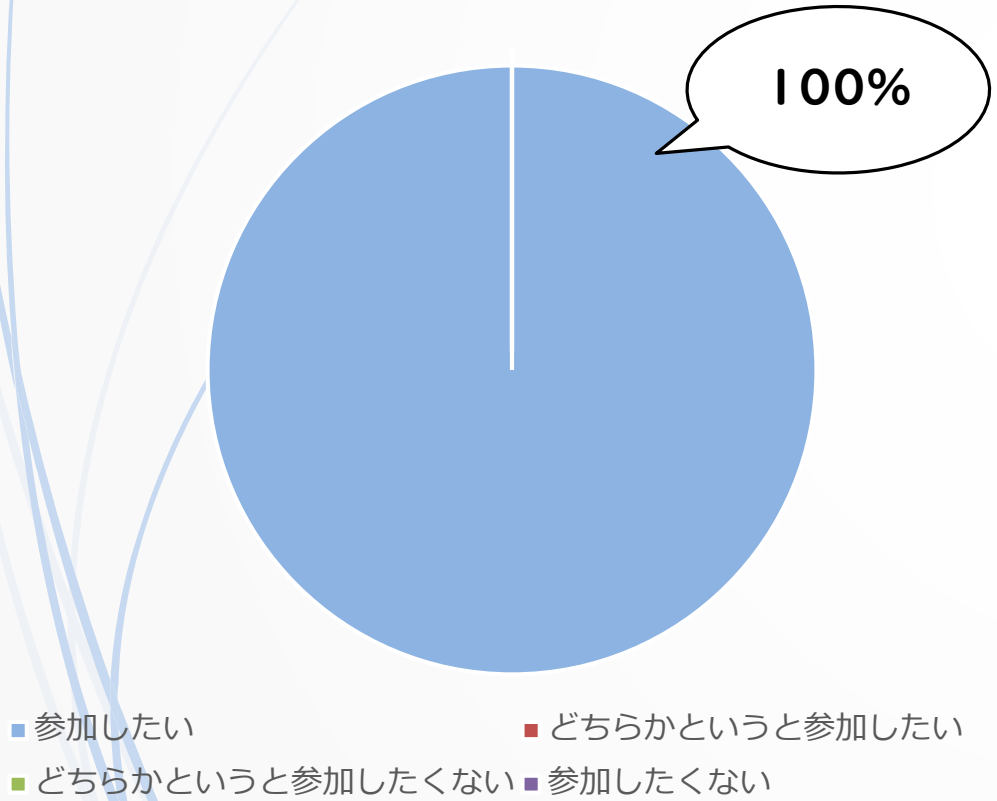
玉庭のいいところを見つけることができたか



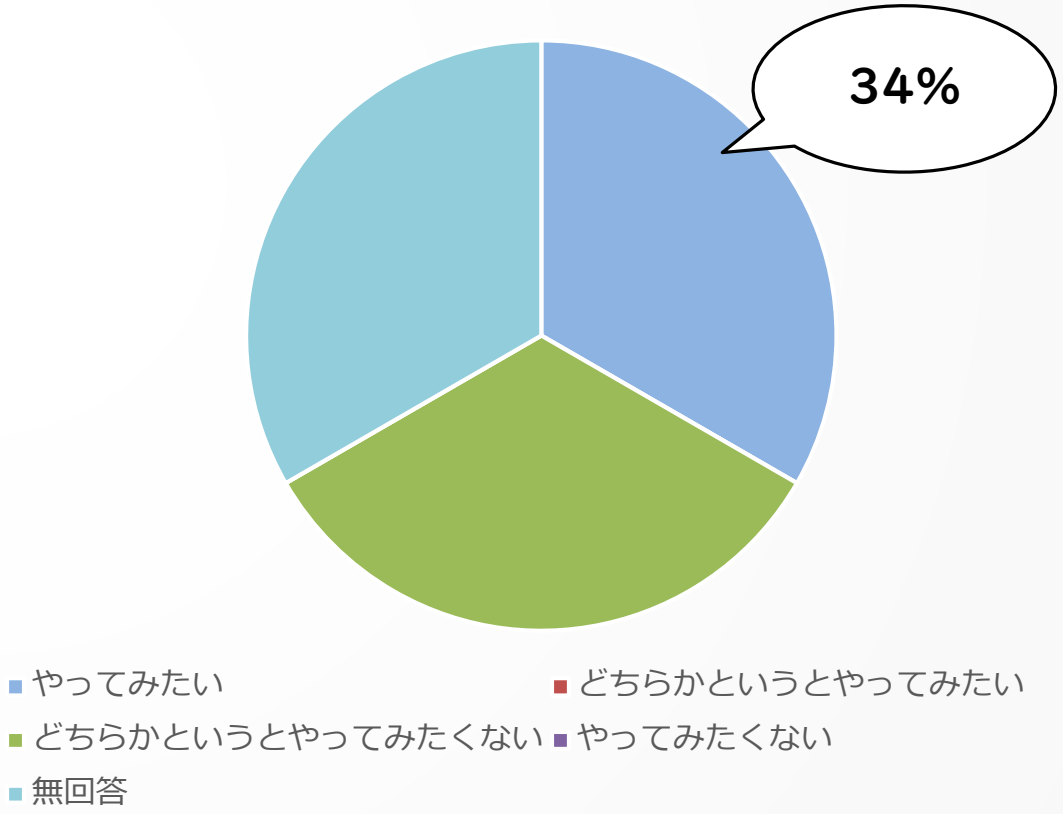
３　事例紹介　～玉庭地区交流センタでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより【小学生】

来年も参加したいか

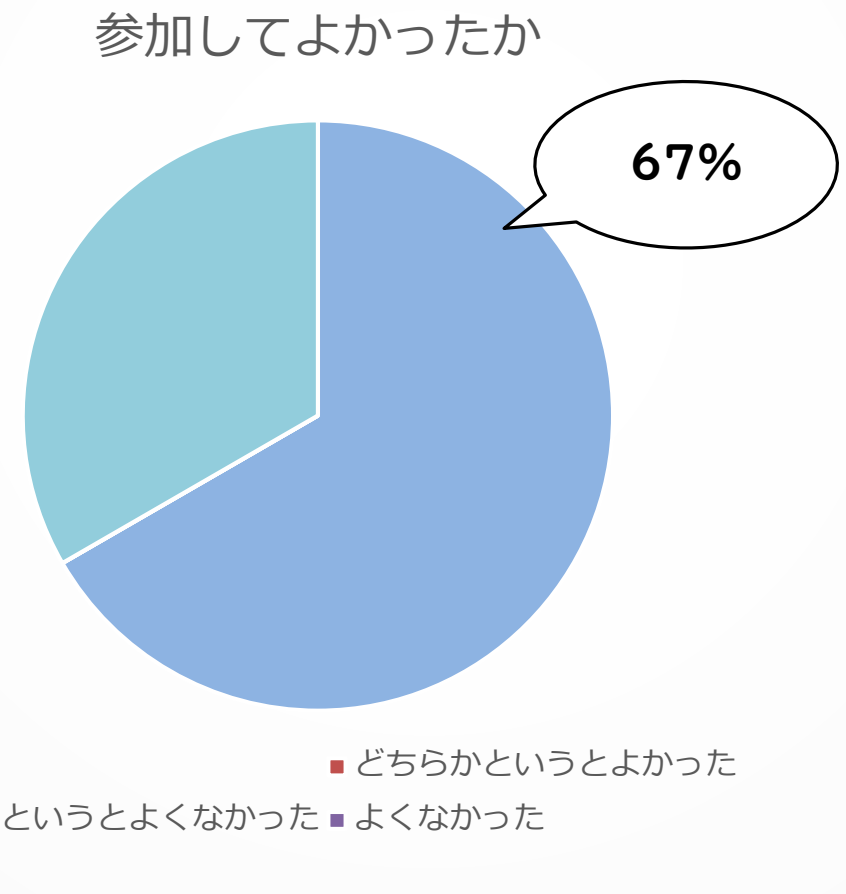


中学生になったときプログラムを考えたいか



３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより【小学生】



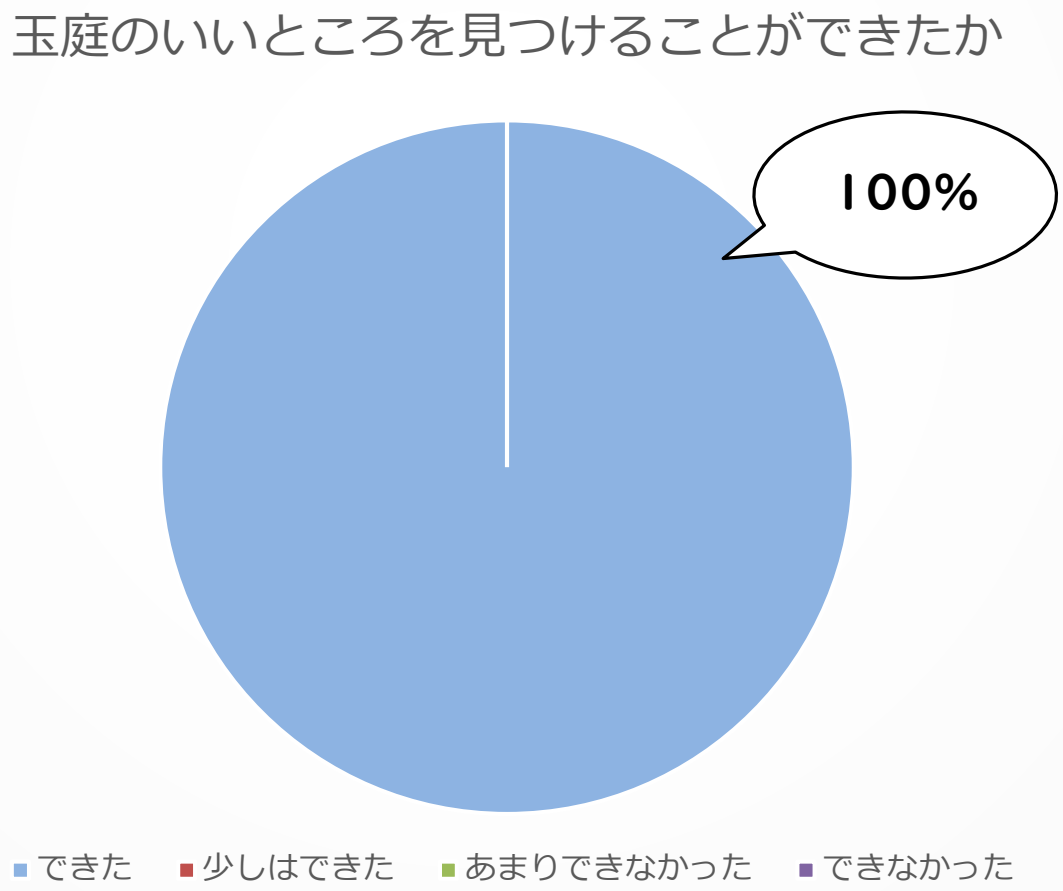
３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより　【小学生】

・上手にかっこよくたたけてよかった。
・中学生がやさしくしてくれてうれしかった。
・きんちょうしたけど、先生方や中学生たちにも協力してもらって楽しくたいこをたたくことができた。
・地域の人がたくさん来てくれてうれしかった。

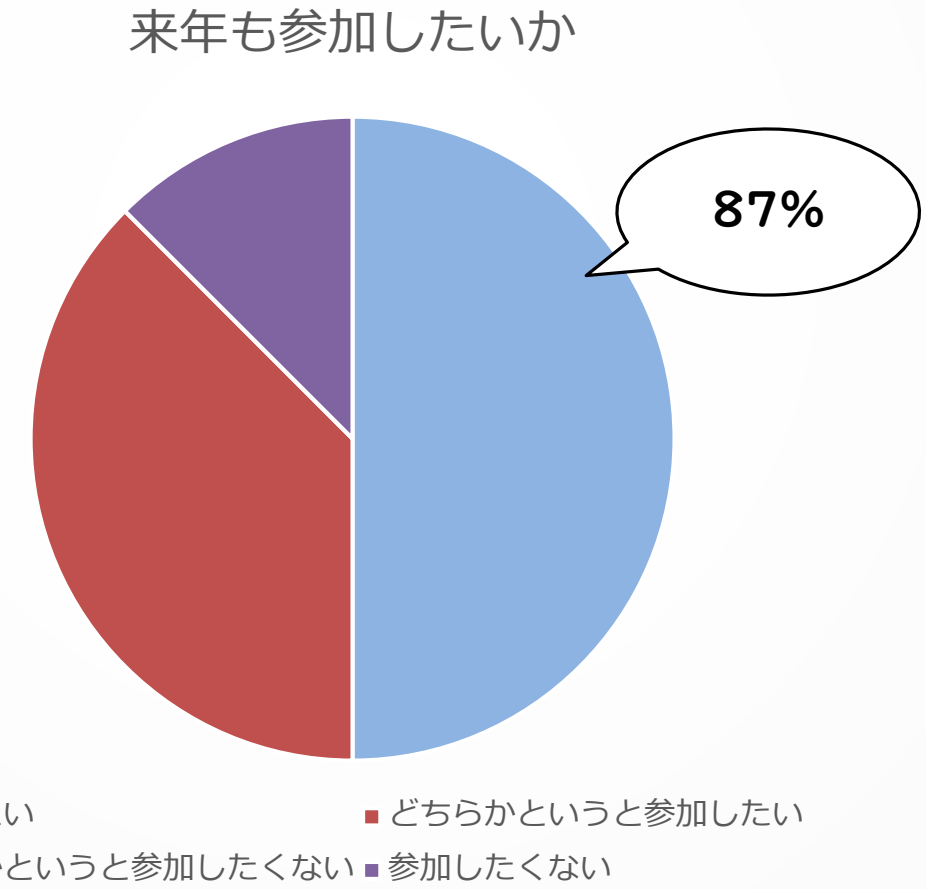
３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより【中学生】



３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより【中学生】



３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより　【中学生】

- 久しぶりに四方山太鼓を叩いて、懐かしく感じた。小学生とも触れ合うことができて楽しかった。地域の人々に支えてもらってきて、今回はその恩返しをすることができた。小学生のみんなに四方山太鼓を引き継いでいってほしい。
- 久しぶりに四方山太鼓をしてみて、体に染みついている所がたくさんあった。教える側は初めてだったけど、スムーズに進行して、教えることができた。このような機会を通して、たくさんの人と関わり合うことができた。
- 夏休みから始まった、長い期間での練習だったが、小学生と関わるよい機会となった。

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより　【中学生】

・部活や勉強で忙しいと言いながらも、協力してくれたし、初めて叩く子が多い小学生のみんなも、練習を重ねるごとに上達していて、みんなを引っ張っていく立場としてとても誇らしかった。

・本番では、全員そろっての演奏は叶わなかったが、参加できなかった子たちの分まで精いっぱい演奏することができた。演奏が成功し、たくさんの人の笑顔を見ることができてうれしかった。

３　事例紹介　～玉庭地区交流センターでの実践～

体験プログラム　事後アンケートより【交流センター担当者】

・目の前の課題にどのように取り組むべきか悩んでいるものにとって、非常にありがたい事業だった。この事業を知らなければ、後押ししてくれるメンバーがいなければ、「一旦保留」にしていたと思う。

・郷土の魅力と小中学生のパワーが感じられるよい事業でした。継続していけるよう大人も頑張ろうと思った。

高校生、大学生、社会人の参加を増やしていきたい！

4　おわりに

小学生

中学生がやさしい。
先生方や中学生たちが協力してくれた。
たくさん来てくれてうれしかった。

中学生

地域に恩返しができた。
小学生のみんなにも四方山太鼓を引き継いでいってほしい。

おきたまジモディ（じもと×study）プログラム

地域住民

郷土の魅力と小中学生のパワーが感じられ、大人も頑張ろうと思った。これからの四方山太鼓を高校生、大学生、社会人の参加を増やしたい。

4　おわりに

中学生

「持続可能性」を願う
「郷土愛」を持った若者の育成

おきたまジモディ（じもと×study）プログラム

地域住民

地域コミュニティの活性化